

## さまざまな分野で女性が活躍できる！ そんな社会を作るにはどうすればいいの？

小中高齢化が進む日本では、女性の社会進出はまだまだ充分とは言えない。が、今後、活力ある社会を築いていくためにも、意欲と能力のある女性たちがさまざまな分野で活躍していくことは不可欠となる。女性の社会進出が実現すれば、男性もゆとりのある生活を送ることが可能になり、性別・年齢に関わらず、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」がうまく循環した人生を設計できるようになるのだ。

政府は女性のあらゆる分野でのチャレンジを支援するための施策を推進している。子育てで仕事から離れた女性がもう一度、社会に関わり、いきいきと働ける環境作りを目指す「女性の再チャレンジ支援プラン」もその一つ。子育て支援を行う民間の団体と連携して再チャレンジを目指す女性向けの情報提供・講座を実施。さまざまな講座のプログラムや教材の開発・普及等も図り、女性の再チャレンジを総合的に支援している。

また、男女共同参画局は総合的な支援情報ポータルサイト「女性いきいき応援サイト」<http://www.gender.go.jp/re-challenge/index.html>を開設。子育てでいったん退職した女性などに向けて、再就職などに関するさまざまな情報を提供している。気になる人はぜひ、チェックしてみよう。女性の進出が求められている分野の一つが理工系分野。

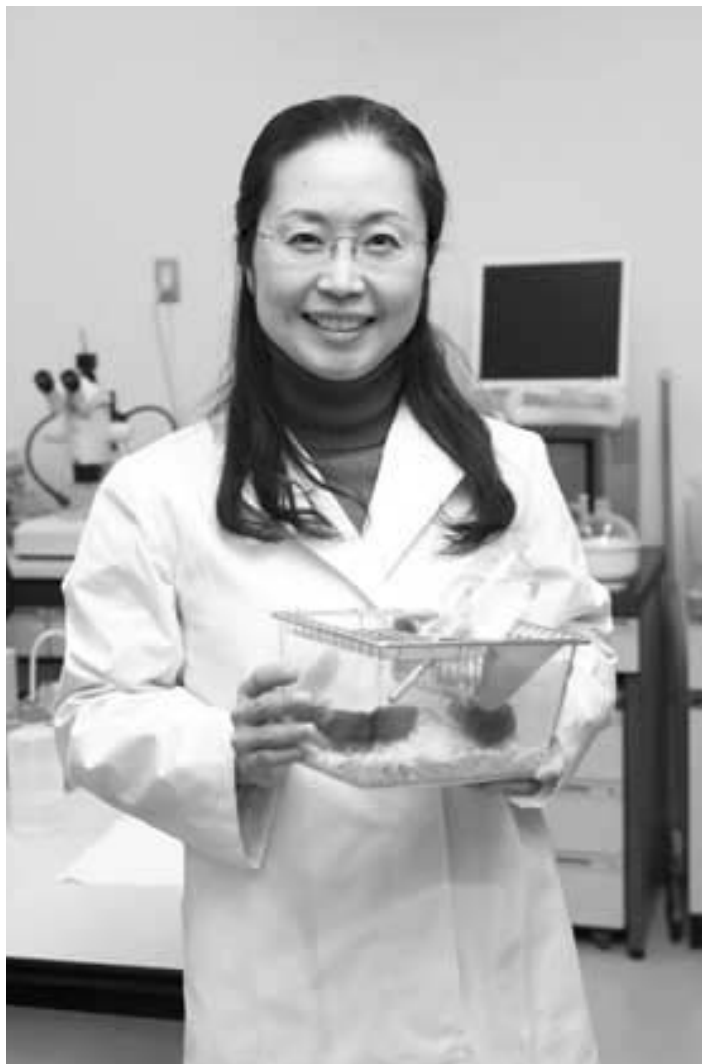
「今、理系のバックグラウンドがあつて、専門性を持った人材がさまざまな場所で求められています」とは東北大学大学院医学系研究科教授の大隅典子先生。理工系の大学、公的な研究所、企業などで研究を続けるだけでなく、さまざまな分野で、理工系で学んだ女性たちの活躍が求められているのだ。残念ながら、他の分野に比べ、理工系における女性研究者の割合は低い。そこで、男女共同参画局では女子高生などの理工系分野への進路選択を支援するためのサイト「チャレンジ・キャンペーン」<http://www.gender.go.jp/c/challenge/>を開設。さらに女子高生向けのパ

ンフレット『プチ・キュリア』を配布したり、さまざまな地域と連携した事業を行ったりと、情報提供・意識啓発キャンペーンを展開している。

文部科学省も科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」を開始。大学などの研究機関において、女性研究者を採用し、登用するためのさまざまな取り組みがされている。たとえば東北大学では、「杜の都女性研究者ハードリング支援事業」を開始。その一環として、東北大学病院の病後児童保育（回復期の病児を対象）「星の子ども」を東北大学医学部の職員・学生が利用できるように拡充した。

その他サイエンス・エンジニアリング制度を創設し、母校の出張セミナーや出前講座を行うなど、理工系分野を目指す女子学生啓発のための活動を行っている。

理工系に限らず、あらゆる分野での女性の活躍が増えれば、社会はさらに活性化するだろう。



マウスを使って脳ができあがっていくプロセスを研究している大隅典子先生。写真右は実験中のマウス。「私が大学院に進学する時、『女性は男性の2倍がんばらない』と言われました。5年先輩に聞いたら3倍と言われたそうです。今は誰もそんなこと言いません」と笑う。